二月報知

文政
慶應
江戸

二月歌仁

目録

西華坊下向ノ事 付 分別ノ事
嚴嶋法樂ノ事 付 牡丹ノ花ノ事
井水改ニ炊ノ一字ヲ事
凉菟從ニ豊前ノ小倉壯道ノ事
亢日市衆ノ事 付 櫻尾ノ城ノ事
宝盡ノ事

駒澤文庫

宝永二年ノ夏西ノ坊ヶ国ニ下向アリシニ、ヶ藝ノ国廣
嶋ヨリ柳江井炊カトモカラヒソカニ告狀ヲ通シテ中国
ニ凡雅ノ旗ヲアケントニフ西花坊ノ白アラソヒハヨシ凡雅
ナルヘシ然ル當国ハ嚴嶋ノ御神タヽヤヽヽヽテ何事ノ子カヒヲヒ白シ
幣ニカケタテヽツルヘキニ其嶋ニ林角芝船アリ龙ニ元日市ノ皇ノ
ツラヲニ多鹿線因民ト甲ノ星ヲカヽヤカスヲツカラ呉魏蜀ノ三島
ニタチテヽツレヲカクトモタツ事ヲヱサコシニ所一時ニ物スキノ
旗ヲナヒカセテ明神ノ回廊ニ會盟ヲナサハ神慮モナトカ凡雅ヲ見
ステヽヽハムト是ヨリ各々一同ニテ神坊ノ法樂ハ五月七日トヲ定リケル

宮嶋

林角

夕部を宮もとい雲乃家
ゑこと乃ち行 清乃 松 ち乃 ち乃
行より盃 山ち乃 ちゑ ちゑ
一声の乃乃 ち乃 ち乃 保乃
畑中 小ち乃 ふ乃 ち乃 ち乃 ち乃 芝船
白い玉橋 の こ ち い や ち ち り 角

山蔭の鶯のこゑもまだ
納まらぬ梅を見てなつかしう
信濃なる人を笑ふ春の
しるしやとかりの宿の梅の
ちるまでに色の匂ひ梅の花
を詠ずるとて一首 紅
あたらしの夫くれぬ風の
吹く梅ぬい 稲 芳 刈 好 角

雪乃羽をしらたまとみて月
さりの居しれて星乃明をむ
仏元四年は例年の例の花に
梅の花乃ちらの高い木の之
年篇けてむ高い仏元の春を
面乃降日ぬ高紙ありへて
竹梅を四つ乃ちらの梅
お墨いしめよ小紙 芳る 角

紅 風 角 紅 風 角 紅 芳 角

ひとりある義を思ひ侍りて

朝日こゝろの粽くさ葉

よくの風よ日和も吟あるを

神よ勝を こゝろとせしに

汐のまゝ人間の浦浦

西やうるふ人 拙乃あるを

この日月のまゝ海へて折まゝ

こゝまゝへ、ゆ 車こゝ らも

拙

凡

角

孝

拙

凡

角

孝

野ゆらゆ方をこゝ病むことて四月

業菓子所ちらと業の凡折

上宝をゆうゝ人と問ひ而白い

あの場こゝあるよ を稚い蓮て

けこゝゆ花を学ゆて書

竟雀乃時のあるを ゆらゆ

拙

凡

角

孝

凡

拙

文鴻

三ッ

柳江

深しさの仏凡やこのうゑも好

こちてはつくるを沖の白波に　林角

重うらい寄持る月の山も秋て　源荒

つれみ和をと第妙　大切　江

きこもる鶯のなくは行くらし　角

俤りせしとあらはちのう春雨　荒

10

位らのんるようを解うある　江

夜寒い寒とを言ふ月　角

さんりとうりしと言い仏の寒い　荒

大根独の山あるり寒る　江

かりもこちらこんをうて是　角

只地とも鳴いる明の寒　荒

このやしよなるとも我ゝ鶏也　江

荒てなりまい汚いのみよう　角

[illegible]会の時も毎しあるか仕合　蕊
あすり毎つるかさるかさる紙　江
花をもうわのいうつらて咲みを　角
三日中いとうあるさい　仕
こ孫くと紙たる声の宴つる　江
あんかをかう毎りあるる　角
二りてを宴せをへをるれを二日てを　蕊
サる宴ハくく家乃　間法　江

宴ふくをををいをを　角
ふくをくをり秋の本よをル　蕊
をふををを毎よをむ京をう　江
無庫ハ　一鶯も　角
と稀ゝ京に出て人と廉ふを　蕊
二階へあるま出して源天　江
風の月ふ咲ふ月雪の月　角
雪ふ月をを毎ふふをあの山　蕊

[illegible]連を中くしんとす　江
二ゝるゝ[illegible]ゝ　精[illegible]　角
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　蓑
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　江
川の[illegible]川の[illegible]　[illegible]　角
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]代

[illegible]　十二

[illegible]　十二

[illegible]　一

[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
社[illegible]人の[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　仲
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

梅の香にねし都の花をみるし　含毛
まち紙子紙衣ぬいてひらくや梅の花　オハリ 為邑
花柳猶みる事しかりけり　越後 会雅
茸やうれし露のこぼれけり　車庸
三日月のかげさびしさに萩もさけ　今
秋来ぬと扇は膝へ置のとる　継川
ある茶人の許にて
木の葉さへ我をとおもはぬ手向哉　伊丹 宗珠

20
さめし夢はらくる音やちりては　洒人
いそいそとつぎあけて数られ　彦根 許六
少女の眉乃ぬぐひやかざし草　以右
ひとりならぬあるしや桜作り参会　イセ 琢茗
あけぼのさくら一役ありてならぶなり　全
吹けのや花さらし錢之花鰹　採不
山ざとや旅寝の花のそれもなし　南洲
松に鳴八千草つゆや百色の声　汀芦

魂のかよひしもとのあるしかな　友来
紫菊やよしとも繧のなほまさる　庄池　奇川
浮世猿や伝幸を牛の嘸なると　今
みのむしのなくさいてかる本の葉　冬穂
鳥はけくかしこ継本の木のかけ　拾卜
稲つけし砂原も雨さ月哉　推之
いやや声つきいまも秋柳　四雀
さ度さえも以や秋のきりくさ　林月

らんみし一しかせきや春乃花　三河　白斎
鶉なまらつかくまのやきその穂　三ケ　菅文
白壁て酔をさまよや月の花　角呂
織縫の十二ひとへや菊のむ　箕千
長き町の秋のよしみや庵幸　白猿
剣三月大根花さかれし　一の次
吴亀亭
銀白稀　二章
本宮川のみをむしなきの秋　吏明

梅白く嶺にまださす 名月か この頃

　櫻木の露にて

ちらちらと奥はよし野の霞かな　蕪邨

高き裏見えて神みさふ小蝶かな　モ人 魚鮮

月ちらちら椿は落し大松川　味凡

夏めしの歌に七二三日あり千　全

草をうけてちり梅を咲ん梅の花　玉雉

下草は行しくの春雨暮し狐　善石

雉子鳴く声ちりとけ籬様　里鶴

松原や海をうけて残月　李喜

初雪や昭物共穂は散行　巴静

世の中は風にはりも白し梅の花　松星

松風を打みつもるる殊し気　風水

鶯の小藪にこもるし笹の音　二竹

川二里の鐘を移ふや椿藤　全

枯草や無名の下か一つくへ　猿之

うんうと考へ合はせて考へる 全
考へるや月花の名所の名所 積恋
帆をらい浦に寄せて新しても 江水
本屋や白いてていやうう秋 和舟
芦毛山の往来を行や夏の雨 全
武士や考へを抱へて 鍋 国助
風い方戸うう清子 胃 全
60 菜の花や とを知らぬ 昼寝 呂雀

下駄の歯とうあけて新の月 全
柳白ふうふうこそ考へ日の丸 変次
考へ考へ秋の陣の二天の月 全
まつかと絵をあのむ 蟬丸 方之
大名の五月の年寄 名日月 全
ひよう考へ知て 逃る 徒丸 有能
俳のまるせいう 物や 秋の山 全
地ことの陣家い 清さ 月の蓋 東羽

[illegible]けてあるよ[illegible]ぶ　仝

みのうるうしかのあるうて　[illegible]

[illegible]明のけて[illegible]の中　仝

あるとあら[illegible]の[illegible]て三月　[illegible]

[illegible]

[illegible]もひとよ　梅乃花　[illegible]

門中て[illegible]

[illegible]の[illegible]　秋の色

[illegible]

[illegible]　月　芝紅

[illegible]

田楽の侍を[illegible]　[illegible]

こゝろ事や行くをおくる月花
家路の雲の雲ゝ　雲の秋　雪白
一吹乃風や　すゝ川清水流

廣嶋

こゝろいそがしく風の音かな　井炊
山ほとゝぎす　とゞこゝ十月　深川
こゝろ又鶯帽子の高い所　支考
一弱のこゝろ　炉　炊
樓ゝひらんか　炉　炊
春雨乃高ゝを　と名ぬ　芳

[illegible]さけて多へ長い新文さま　炊
生活の物[illegible]　凡
[illegible]つらさ言い[illegible]へて[illegible]　考
10
夕への[illegible]　炊
さいく[illegible]所　[illegible]の[illegible]　凡
[illegible]　[illegible]　考
[illegible]　炊
むしい[illegible]　凡

[illegible]て[illegible]　考
[illegible]　炊
[illegible]　凡
[illegible]　考
[illegible]　炊
20
六月をつ[illegible]　凡
[illegible]　考
[illegible]　炊

所うをこうへいたるいちはし　海　凡
あのけしきこんよ事みうり物　春
みなか田中の行乃あちこち　炊
をもい物をうとるうるよ　凡
宗旨とうてはなしかをない坊を　春
ことの月いあみいさまの　炊
おこうてを鶴いるれ春ふる　凡
さてこんすなうち寒い時うり　春

小栗はをかふひなる　炊
ふれなうるを人ぐあるも　凡
縁寒の山代とそなもい仏へ　春
花見の夢ふ見いたも切　炊
ちかまてをの新のふいる　凡
あとへいんとこ海とを、の声　春

いにしへにあらぬ人
くるあらしけ袖舞よ
あらい行て

孫蕉

袖うちはらふ扇子にひらめき出て又くる
ちりと塚しいてるみ山ちる雪　柳汀
きらくとこさ秋とをひさしけて　井炊
ちりの餅みな春いのるよりう　柳江
ほそ道なる桜の月ちる行雲　汀
あ秋しやう菊をやうて蕊道　蕉

16

信濃あさくらの人くるこ彩田姫　江
笑いはなハ張と　鄙ぶり　炊
ちこ子し音ひ彩かあ膳ら　蕉
あひと沈うまる膳をもて　汀
ちいるすい玉つちを入ちを　炊
あくあをあ何を注ち　江
をちとみて蝶のまとそい　汀
あて山子秋ちる門み月ち　蕉

吹かいてを手にとりてみるに秋の花　江

ちんそみるらく　笹の上に霧　炊

まるとこのかも笑ふ花のかげ　羽

うつすと雲うつりて行くうら　江

きみかのこゝろの秋も今うつる　菊

うちなびきつゝ行くを行くう　羽

秋うおりいとうつくしうつ　炊

待て　ゆくみを出すす　菊

人の忘いそいちんり色　道ん　江

夏より暮るゝ　暑い　夏　炊

金屏を　ふふよ　ちて　おるゝ　羽

面の　ふれ　ふるとうえね　江

一夜い　熊野　とうけて　和歌浦　菊

思ふ　秋　乃　うえて　行らん　羽

四　形　り　小　ゝ　みん　月　の　新　炊

咲てこんとの　ちいう　蜻蛉　菊

しら浪ハ山の和尚乃九折　江

金銀ゆきさとり除根子追出　炊

汁鍋もれ春ハ昨日ハ菜つけてし　詞

茶ハ花よ里売乃貴賤　江

鶯なり萩を残して二三月　蓋

紙と硯あり春乃あけぼの　筆

頭蓋九　柳江九

井炊八　柳詞九　筆一

廣鴻

藤のゆるみしと去稀ハ鶴の糸　小枝

菜の花や冬浅りあきる日の暮り　為吉

秋の暮なれや唯し出て来る鶴　万子

醉ふさまて若菜つむまで旨み　仝

千歳ふ筆耕書きの机かれ　牧童

いそうしき冬ふ日影の枯野かな　仝

草むしる白妙秋乃小蔭かれ　桐之

中よりとゝまりつる事ども薬刀ゝ 後世
丁稚ども多く内似たりたる事 仝
○蛇の毒蛭に咬まれたる事 仝
警世の為に成べん 小泉氏 宜伸
地蜘乃ゝや打たけ蜘しゝ 小枝
ゝ子の毒ともに接茶 山像
ゝ乃ゝ乃口の行ゝ 目白 玄嘯
出ゝ行ゝ 東福寺 藥書

芋虫毒のゝ事 柳嶋
ゝ面ゝ出ゝ 仝
茅殺ゝ信ゝ ゝ猫川 枝東
ゝ子ゝ ゝ警ゝ みの毛 玉苑
20 蛭乃咽 乃ゝ ゝ灯 仝
弱出ゝ ゝ ゝ 仝
石口ゝ 秘ゝ 隣 枝ゝ 枝東
ゝ乃ゝ ゝ ゝ 小泉 聖堂

宵より桜降りても小あらし　少枝
みそさゝゐ犬と遊しけり石燈籠　長統
まさりみて梅をおとさぬところかな　和丈
若ちんの気色を招けり蒲団哉　竹葉
船過り錦まとふ作の菊　八紫
露かゝ　然てくる風の戸々　秋之信
酔顔のよきはさうし桃の色　鈍中　渓放
つるかやいはほの他にとゞまりけり

山くれにそらも羽織時雨けり　瑞吹
螢の行と川へ流星降るらん　紅
まさやのちりもや梅の色　巴分
深の月出川や梢乃夏まかし　同
降るかとて蝉と人も秋の月　未練
篝してちんくひまく時雨けれ　梯士
おもひみだれし手毬鶯乃声　吉吹
鶯啼て春うち謡ふ氷らか　十緒

40

秋つゆくさに何ひあかりけるか　自笑

秋入りて小田みちしめや落穂の縁　知足

落しても拾ふて稲ハ又こほし　林紅

一しくれ三くハて屋みさはかな　十丈

ましら鳴み我もて見てふみ分ハ　壁角

翠嶺の露や薫にからむ露の縁　丹池

日の出る里の奈良や鶉子の声　小人

鐘の音や芒と闇に九折　何叢

50

隠れ家に籬ひとつ月見す夜　右門

寺さ移ふ外乃木立や秋乃暮　二川

ゆきての露み高かし雲の色　柳井

秋の野をこずゑ深けれと入日かな　乙蓮

菊の花も唯か寝や名月哉　卯啓

静かさもさや山く小道作ふ標か　名村

夕顔を葉や結ぶ秋の宿　秋甫

桃灯乃光ハやみありむしの声　松竹

五標とりて忘るゝ猪の狩場かな　琴吉
名も知らぬ木の葉の色を結ふ露　浙人
星の宿きこゆる声に尾花かな　越後 入道ト
踊る子の積ゆく身の錦かな　石人
京極や月見て出るいつも田の人　口吉
無住(?)は露の中なる鹿の聲　汲古
名月や帆かけて見ゆる笠しくれ　佐渡 亀路
秋の色錦染むるの野紺(?)ー　了く 守中

夕顔の白いは見ても肌(?)かな　自笑
梅か香や見ぬ千代田の武蔵の花　桃妖
いさゝかは仏明のよそ鶯(?)の声　三人 序為
早稲の香に酒つくり初る入日かな　里揚
十五夜にて寝る縁の行灯か　宗吉
卯の花や姫とほしかる花籠ひ　越前(?) [illegible]
くり笠の浮む秋やうしろつき　仝
菊植とさしみよりや遠ざかる　眺嚢

梅のつや見てしなふてその奥り　古英

川ちかる鍋のふ雲や休三月　明全

白粉ふきの気みそくや梅の花　冨慈

青柳の中よりきゆるふ鶏か卵　幸乃

梅が香や二稜い伴もの下陶さ　藤川

我ならみ寺ちら萩や下総の音　芝遊

新かとおりんと咲けい春乃しら　東喜

子ら種や樺しるありきふ年　仝

80

暮節

年よりて出る人もなき山さくら　柳江

初や生乃佛娘や花乃新芽

送り火やけ松うけの昔出し綿

煤はきて縁をとまりて寝ころぶ

うちかきの鐵日紅や雑煮箸　牛水

薦紙の麓さま柳や一夜衣

引く年も名ぶ見とりき福のきさ

夏荷や雲ゐにまかせて緑乃芭　霽萩
根葉ハ波の田にかくれこゝる
草竹の影にしぐれ川やなぎ　今
鴬過て如月かける柳かな　契子
あらしてきたるぬるゝ紅梅の花　須川
風乃岩なる吹てやうかりて花　凉阜
この柱おもひとゞめん壷火鉢　柳絹
糊こはき人の出立や飾乃味　仝

廿日市

あけぼのや雲雀鳴ほど晴て又　支考
里乃煙つりて竹のうら　康凉
新路の家は向ふ江の花そて　周氏
喜雨の種子ぬらしてこらゝ　瑞民
花をかしく親しみにもまたまかり　琮
秋風にたゝ市の佐のかげ　夫

家を入て国を焼て住家を
ちらいらるまら智いちらら　民
分限の中て牡丹と云の花の　房
10
佛しいこの所あり　源
らこちら信ら者ら稽けて　民
是ちよとて野の義のお姫　凡
花舞とらを道ぶ生ら　源
信ら照を祈乃和鶴　房

枝のうを縫よ人ら生ら者のを　凡
人乃ちを生なるら別　民
那しれを花しんとその月　房
是ちら者ら信源　源
者いの今あこの枝ら行　民
20
本て象ちんら信のちや　凡
朝日よこちらて和ら　源
文乃年ちく四を知ハ　房

仙父のもとにまゐりて
金仙講いとなんやうとて
雪の来る川所の喫茶
かがいもりうまうまと
表書してその糸をもて物なへ
時雨の雪に紅葉の新
拾ひて作いまんと月のと
仏前に奉のの円俵のとを

円
民
孫
考

雪のもとにうゑつるく
笹の花のもとにまてまる
数花のもとのうの名や
ここにかりとをもい猿ち
陽をよみをもきいけ紙子
郎の陸円にぬしのさと

円
民
孫
考

四吟

深草乃花いろの袂なるかな　蘇線

鶯の鏡を手あけて入る　因民

立かゝる古ひのかをを焼て　海蓑

中くるまれる夕ゆふ　帳坊

月かけと鏡はてゝ秋の夜　民

鶯の鏡乃袂なるかな　線

かゝるとのゝ秋も秋　坊

捨てのけ花せる秋も　蓑

庵鶯のかゝい秋をせるかな　線

10.

鶯を絵ゝ可ゝと伝　民

三里とゝへと塚下の家つゝき　蓑

家く答へぬをのらんるゝ　坊

今はゝ山ゝ男ゝ去ゝ孔ゝ　民

海石ゝ行ゝ秋あらゝ　線

月見の明るを見るにつけ
祈りの心かな　名佛　巧
花くさとなるに見いるの秋　民
京とこんなして白髪と　ニース　巧
家々へと都の嘉の系を　線
九月節の長くなる侍るさい　民
年の花を眺めて星い家にけ　蓑
一四　何乃　巧
線

進みて稼ぎの細しき道をも　巧
端と屋ふ中乃ぬを侍　蓑
見るかなる山月を見るかな　民
新しきと　巧
光ゆくと秋のんなってまり　線
ちるなとと　民
紙と行逢ふてや見いさて　蓑
ぬんてまるを見い　名　線

かゝれとて西北のみに陰きさき　竹

唐人を泣く恋乃こちら哉　甍

不比同もうたふ螢かな　洗のゝ氏

山寒し山乃露ふしわか花咲　其

草餅をとつて飯くらんに冷なる　總

ふくさもし旅衣はたせく　藍　筆

廿日市

月花よ浮世のことに三日のちく　長崎　哲叟

橘のにほひもとろとよ秋の風　仝

一声聞しや影とこそ水に寄さよう　其戎

秋風に影より海をとる山家　百舟

つゆのあみ子たの中や稲雀　砂太

見まてしらしゆきとらなり山桜　久留米　紫桜

末の露のまのもろくてる　彼岸作　海翔

あり合を人まもりて[illegible]
苗[illegible]
10 [illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]人の[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
20 [illegible]
孫の[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible] 一首

[illegible] 仝

和歌のうらのもゆる芝丸根 月下

世[illegible]や[illegible]雀きゝをる里のうら 松岳

[illegible]の角[illegible]紙の[illegible] 狩

[illegible] 牡丹畑 此[illegible]

[illegible]の[illegible]と[illegible]て[illegible]の[illegible] [illegible]

[illegible]は[illegible] 狩柏

世の中の[illegible]は[illegible]山[illegible] 才本

[illegible]の廻[illegible]ん 義繁

[illegible]と[illegible]秋と[illegible]ん 仁尾

[illegible]の[illegible] 山風

[illegible]の[illegible]の[illegible] 九良

[illegible]や[illegible]長[illegible]一日[illegible] 才本 伍方

[illegible]ん[illegible]て[illegible]角[illegible] 聖花

[illegible]の[illegible]の[illegible]ん[illegible] 今

なけれとも中ごろ
白雪の降りつもる
をる浪敷のおくへ行や
西奥
里雖
百奥

西業坊義可

夕行のそらにてやうら
夕行のそらにてやうら
かと京の御ゆや
投入ゆとなもゆ
主のなるよ世の
嵯峨
岩橋
全
全
全

68

系ゆ一説を言ゆ浦ゆ和義里
メ主やまのゆ新の白全
色移やそらと色白乃廉の白全
後鳥の系ゆ
ゆ色行ゆあいゆ
山ちいゆゆまるくを
海山のそらゆ
新ゆいらゆ
世
世
言世
言世
言

[illegible]

70

他のりゆの名をみ 播や 郡しな 更原 編笠

[illegible] 乃 [illegible] 田ぐ 物沐

種の名 [illegible] 全

[illegible] 川の原 蓮稲

[illegible] 稲 [illegible]

[illegible] 編 [illegible] 焼畑

[illegible] 山 [illegible]

第

[illegible] 稲乃元 蘇線

[illegible]

[illegible]

80

大豆い八 [illegible]

[illegible] 田氏

[illegible] 二 [illegible]

[illegible] 第乃 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible] 信の上 因氏
筆者をこゝに [illegible] せよ 秋 定秋
之助より門をひらけハ和あり 井欣
10
玉日 [illegible] 新うつるとうつる 京瓦
[illegible] 称行
一乗ハ [illegible] 乃行の子 民遊
川のかつをハ [illegible] 田代拙亭 [illegible]
ハいむしくゝ [illegible] 乗うけの [illegible] 岩城

人[illegible]二百 [illegible]
祖父の代[illegible]いうい 孫の本 家知
[illegible]月を秋の [illegible] 柳江
[illegible]鶴 [illegible] 鶴堂
[illegible]の [illegible] 角
20
かゝ[illegible]を [illegible] 京
種[illegible]の [illegible] 原
邵味噌よ[illegible]乃天 [illegible] 九

自然とうゐ御城ゑ出ハ其の面
々孫抔とハいまだあるとも
ハナて死ゑ形ると人を信ずの
日の夜中ゑ御屋もとの手
少きのゝ有ものゝ花も咲ハ
天窓ゑつけて暮ら ら別
内儀のゝ形とてゑ世ゑ
左所へ少きハかりとゝ有り

30

炮義の家とつくとゑ下
姿しらゑゑ日暮ゝ花ハ月
かゝるをゝ花とゝ言て我秋
種も庭へ出さ少しゝ
書信してゝ庭ゑ出ゑ
行ゑ世ゑ乃 庭中 ゑ
動て各債ゑ
あの年寄に

炮義 裏 花 月 石 秋 山 ゑ 知 裏 角 猿

行燈とそ不品賤ふ是不風
ゆゑ色乃そ新しい世永
一面ゆ言臨の言もしつきりて再
南下あゝい是と也孫炊
古作ゆ拾の言和ゆ並ふ紙の世岩
言乃寫ゆこゝの夕紙に

実法ゑ

筆表額

表

三の日ゆ一点ゑ歌

裏

いとゆや名ゆ四ゆ別けて伊勢海

小松殿甲

小松ゑゆ甲や言ふ是月夜　井欠

去年奇絵

儀九七を言ふふ鳴や蕗の声　職巧

馬角

をちこちや春大張みる竹角　麦石

弓張

草結び明をつらしてや夏の花　流弓

門伯邸邸

かをりけと笠ぬ月ゆゝ稀月　柳江

をを伝を言葉教王業書

明ちこちふ高をてやをんとゆゝの花　沖行

矢葉弓　印時敬初

庭弓ちけいこちや見て死意　意和

龍玄額

10 額拭く鈴乃白石和尚の花の涙　暴紙

七男経を

二男ちつをけや高をみ赤とん　京江

紅葉 宇喜多直家

この葉ふもとあのして四月の花　民遊

新名所状

新状や木枯おろへて　秋の石　交子

る紅葉の刀　宇喜多

山路やめのけんみちの新　秋有

る金魚の前

立ちて秋を前や三杯の色　京石

梅法華寺庭衣

けふのかつらゆゆし紅の色　抗南

連宗法華　平氣二十二人

月の秋と紅葉の小　田民